

都道府県・ 指定都市番号	45	都道府県・ 指定都市名	宮崎県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	商業
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名（生徒数）	みやざきけんりつみやこのじょうしやうぎやうこうとうがっこう 宮崎県立都城商業高等学校（487名）				
所在地（電話番号）	宮崎県都城市上東町31街区25号（0986-22-1758）				
研究内容等掲載ウェブサイトURL	<a href="https://cms.miyazaki-c.ed.jp/6013/">https://cms.miyazaki-c.ed.jp/6013/</a>				
研究のキーワード	地元企業ケース教材 観点別学習状況の評価 地域課題 対話と協働				
研究結果のポイント	<p>【1年「マーケティング」】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「主体的・対話的で深い学び」を地元企業と連携し、具体的な事例を用いたケース教材やディベート等系統立てた学習指導の工夫改善</li> <li>○ 平成31年1月21日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会より「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」を基にした学習評価の工夫改善</li> </ul> <p>【3年「課題研究」】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域を学びのフィールドとして、商業の各分野の内容に関する専門的な知識・技術を活用し様々な対話手法を組み合わせた、探究の質の向上と総合化</li> </ul>				

## 1 研究主題等

### （1）研究主題

学習指導要領を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の実践における、指導と評価の一体化に向けた研究 ～地方創生時代を生き抜く力を育むための商業教育の在り方～

### （2）研究主題設定の理由

本校では、商業科（大学科）の目標として、

ア 都城商業高校生としての自覚と誇りを身に付ける取組を図り、教師自身が高い志を持ち、何事にも誠意を持って全員で取り組み、可能な限り生徒の可能性を伸ばす。

イ 教科における学力の基礎基本を徹底させるとともに、生徒の興味・関心、進路希望に応じた授業内容の充実を図る。

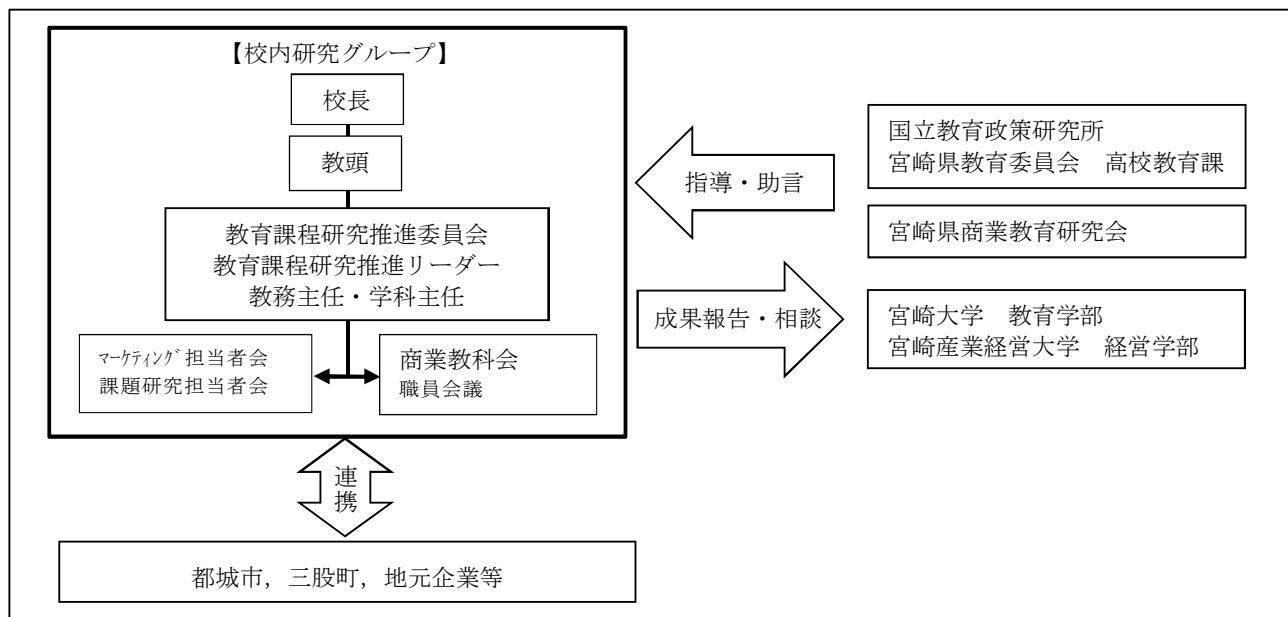
ウ 自ら学び自ら考える学習態度の育成に努める。

エ 集団の中で考え、協力して行動できる場を積極的に設け、「社会力」の育成に努める。

の四つを掲げている。

地方創生時代に商業教育に期待されるのは、複雑で多岐にわたる問題に対応するための対話力や、その対話をまとめていくファシリテーション力を高める教育であると考え。そこで、本校における商業科の目標の下、自ら情報を集め、分析・判断し、それを表現する力を生徒が身に付けるための指導の在り方を学習評価と一体化させながら工夫改善し、「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業改善につなげていくことを研究することとして、研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成 30 年度	<p>4月 「マーケティング」及び「課題研究」年間指導計画の作成 生徒の変容を把握するための事前アンケート調査の実施</p> <p>5月 「マーケティング」における協調学習及び対話手法を活用する単元の決定</p> <p>6月 学校視察（熊本県立八代東高等学校，三重県立宇治山田高等学校，岡山県立大学）</p> <p>7月 「マーケティング」におけるケーススタディの研究</p> <p>8月 産業・情報技術等指導者養成研修参加</p> <p>9月 全国教室ディベート連盟九州支部主催による授業ディベート視察</p> <p>10月 地元企業，宮崎県観光推進課との教材開発 宮崎県教育委員会高校教育課指導主事，宮崎大学，宮崎産業経営大学による指導助言， 授業見学及び打合せ研修</p> <p>11月 教育課程研究指定校事業研究授業実施（担当教育課程調査官指導訪問） 研究授業発表及び研究協議会（学習指導研究会マーケティング研究会合同開催）</p> <p>12月 協調学習の手法に関する教材及び指導方法，評価方法の検証</p> <p>1月 研究の整理（成果と課題，次年度に向けての検討，生徒へのアンケート調査）</p> <p>2月 国立教育政策研究所の研究協議会において中間報告</p> <p>3月 「マーケティング」の年間指導計画の検討</p>
令和 元 年度	<p>4月 「マーケティング」及び「課題研究」年間指導計画の作成 生徒の変容を把握するための事前アンケート調査の実施 観点別学習状況の評価の検討</p> <p>5月 マーケティングにおけるケース教材の研究</p> <p>6月 学校視察（北海道苫小牧総合経済高等学校） 本県学習指導研究会マーケティング研究会（岡山県立大学より外部講師招聘）</p> <p>7月 校内研究授業の実施及び改善（県教育委員会，研究協力大学による指導助言）</p> <p>9月 校内研究授業の実施及び改善（研究協力大学による指導助言）</p> <p>10月 校内研究授業の実施及び改善（研究協力大学による指導助言）</p> <p>11月 教育課程研究指定校事業研究授業及び研究協議会実施 （担当教育課程調査官指導訪問）</p> <p>12月 本研究における指導方法，評価方法の検証</p> <p>1月 研究成果の検証（成果と課題，生徒へのアンケート調査）</p> <p>2月 国立教育政策研究所での研究成果報告，研究成果報告書の作成</p> <p>3月 学習指導及び学習評価の検証</p>

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

ア 1年生「マーケティング」における協調学習における教材開発と3年生「課題研究」における対話を通じた多様な人々と協働しながら、新たな価値を創造し問題の発見や解決につなげる学習活動の工夫改善

- ① マーケティングの動向・課題を捉える学習活動とマーケティングに関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し、考察や討論を行う学習活動及びその評価に関する内容の検証
- ② マーケティングに関する理論を実験等により、確認する学習活動とマーケティングに関する具体的な課題を設定し、科学的な根拠に基づいてマーケティング計画を立案して提案等を行う学習活動及びその学習評価に関する内容の検証
- ③ 課題研究に関する地域を学びのフィールド通した調査、研究、実験
- ④ 課題研究に関して対話を通じた多様な人々と協働しながら感性を豊かに育むとともに、新たな価値を創造し問題の発見や解決につなげる学習活動

### イ 評価の工夫改善

- ① マーケティングにおいて平成31年1月21日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会より「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」を基に、3観点の学習評価や観点別学習状況の評価の工夫改善
- ② 課題研究において、生徒主導で教師と共に評価内容の一部検討及び作成
- ③ 課題研究における外部評価の導入

### (2) 具体的な研究活動

ア 1年生「マーケティング」における協調学習における教材開発と3年生「課題研究」における対話を通じた多様な人々と協働しながら、新たな価値を創造し、問題の発見や解決につなげる学習活動の工夫改善

- ① 地元企業の協力におけるケーススタディやパブリックディベート(企画提案型のディベート)を用いて、地元企業を事例としてフィッシュボウルによる対話手法、地元企業に向いての体験学習、代表取締役からの講話等といった生徒に興味関心を持たせる方法を熟議しながら、ビジネスアイデア手法やビジネスフレームワークを用いてグループワークを実施し、考察・討論を行った。
- ② 調査仮説の設定を行い、全国の推移を統計から分かることを自ら考えさせ、グループで意見交換を行った。さらに、予備調査をクラス内で実験的に行い、調査結果から検証をグループワークで行った。
- ③ 生徒達に実践的・体験的な学習活動を行い、地域を学びのフィールドとして主体的に地に関わりをもち、三股町地域おこし協力隊と地域課題を設定しフィールドワークを行った。
- ④ 三股町の新たな価値を創造するために、これまでの商業の学びを様々なワークショップや対話手法を用いて学習活動を行った。具体的には、フィールドワーク、ビジネスフレームワーク、六つの帽子、ブレインストーミング、ストーリーテリング、共感を促すストーリーマーケティング、OSTオープンスペーステクノロジー、ハイポイントインタビュー、ビジョンゲームによる24時間物語ゲーム、対話の情報を可視化するグラフィックハーベスティング等の対話手法によって企画提案をより深く考えた。さらに、生徒達が一定期間継続して地域の方々と関われるように場を設け、質の高い関係性が様々な取り組みの基礎になった。

### イ 評価方法の工夫

- ① 章単元のまとめりとともに観点別学習状況の評価を行うことにより、早い段階で生徒へフィードバックすることができ、次の学びへ向かうよう生徒の指導改善につなげた。評価の観点である「知識・技術」では、定期考査のように学習評価を事後に終始することのな

いよう単元テストへの変更を行った。また、「思考・判断・表現」では、これまでの知識を活用し思考できる問いの設定を行った。さらに、「主体的に学習に取り組む態度」の評価における二つの側面のうち、粘り強く学習に取り組む態度については座席表を用いた観察シートや議事録で記録し、自ら学習を調整する態度については、単元のまとまりの振り返りを記述させ評価を行った。なるべく評価に労力が取られないよう単元のまとまりごとにシンプルな評価を心がけた。

② 課題研究では、参加型評価の導入を行った。生徒自らの評価の作成は困難なため、現在連携している三股町地域おこし協力隊のイメージを持たせ、生徒と教師が共に評価を考え、一部相互評価や自己評価として取り入れ、その評価を考慮しながら評価の観点である「主体的に学習に取り組む態度」に一部取り入れた。

③ 外部評価を取り入れ総合評価の指標とした。

### 3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

#### 【マーケティング】

- 教科書の学びを活用することを意識して、生徒の興味関心が薄れることのないよう様々な授業展開を考え、単元ごとに地元企業のケース教材やディベートを取り入れ、協調学習を行うことができた。
- 育成する人物像から評価規準の設定を行い、ルーブリック評価等を活用しながら、ペーパーテストに頼らない単元ごとの観点別学習状況の評価を取り入れ、生徒が次への学びへ向かうことができるようフィードバックを単元ごとに行った。
- 定期考査から単元テストに変更し、生徒へアンケートを取った。その結果、全員が「単元テストが良い」と答えた。「単元ごとなので何を学べばよいか具体的にイメージできることや勉強しやすいく等が上げられた。単元テストによって学習内容が焦点化され、取り組みやすくなったことから、意欲が高まり「知識・技術」の定着の向上につながったと言える。
- 「主体的に学習に取り組む態度」に対する学習評価では、学習方略と情意方略が「できる」から「とてもできる」が20%上がった。また、18項目のアンケートを別途取り、生徒達の行動変容を分析した結果、単元ごとの振り返りの積み重ねが有効であることが分かった。
- 「主体的に学習に取り組む態度」や「思考・判断・表現」での評価については10%が不適切と答えた。その生徒の理由として「書いた量より質」「グループで活動しているのに評価が違う」「何でこの評価なのか理由が知りたい」等があり、評価項目の生徒への理解浸透が足りない部分があった。
- ケース教材によっては、問いの設定が不十分だったことがある。この場合、授業展開にぶれが生じ、適切な協調学習に至らなかったため、望んでいた学習成果を得ることが出来なかった。

#### 【課題研究】

- 地域を学びのフィールドとしてこれまでの商業の学びを活用し、様々な対話手法を用いながら多様な参加者と連携を取り、関係性の質がより良い学習活動につながることで、よりよいアイデアを生み出すことにつながった。
- 生徒主導型の学習評価を一部取り入れることで、生徒の主体性が増加し、良い動機づけとなった。
- 地域の方々を招いての発表会を行い、客観的な視点で評価をいただくことができた。
- 「知識・技術」に関する評価方法を論文形式で記述させ、評価することができた。
- 平成31年1月21日「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」の実践的な評価方法や外部評価の実行可能性を検討することができなかった。

### 4 今後の取組

#### 【マーケティング】

- カリキュラムマネジメントとしての位置づけ
- 観点別学習状況の評価の一層の工夫改善

#### 【課題研究】

- 地元企業や各種関係機関と連携し、課題の設定方法や仮説検証型の学び
- 平成31年1月21日「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」の実践的な評価方法